

第2回熊本県半導体エコシステム形成産学官連携推進会議 議事概要

【日 時】令和5年（2023年）8月9日（水）10時30分～11時50分

【場 所】熊本県庁 本館5階 知事応接室 ※オンラインによるリモート開催

【出席者（敬称略）】

所属機関・企業	役 職 等	氏 名
熊本県	副知事	木村 敬（代理）
国立大学法人熊本大学	学長	小川 久雄
熊本市	経済観光局長	村上 和美
株式会社野田市電子（一般社団法人 熊本県工業連合会）	代表取締役社長	野田 珠実
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社	副社長兼熊本 TEC 長	山下 満
熊本高等専門学校	校長	高松 洋
株式会社肥後銀行	法人コンサルティング部長	高濱 豊
株式会社熊本銀行	ソリューション営業部 部長	上野 仁敬
三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社	主席研究員	吉本 陽子

<事務局>

（熊本大学）

大谷 順 理事・副学長

清水 聖幸 副学長

青柳 昌宏 卓越教授（研究開発・プロジェクト推進部会長）

松田 元秀 教授（連川 貞弘 大学改革・人材育成部会長代理）

緒方 智成 教授 ほか

（熊本県）

三輪 孝之 商工労働部長

辻井 翔太 商工労働部産業振興局産業支援課長（内藤 美恵 計画推進部会長代理）

ほか

【議事要旨】

1. 開会・会長挨拶

○木村副知事

- ・本日はお忙しい中、「第2回熊本県半導体エコシステム形成産学官連携推進会議」にご出席いただき感謝申し上げます。
- ・台風の影響で念のためオンライン開催となったことをお詫び申し上げます。
- ・JASMの操業開始決定以降、本県にも新たな波が来ており、26件の半導体関連企業の立地が決まる等、全国から注目されている。
- ・本年3月に「くまもと半導体産業推進ビジョン」を策定したところであり、新たな産業創出や人材育成を基盤としてビジョンを推進する。
- ・半導体は現在のグローバル社会やカーボンニュートラル・省電力、IoT化の推進の中で、「産業のコメ」を超えて「産業の脳」とも言われる。
- ・生活に不可欠な存在として、本県としても力強く推進する見込みで、100年に一度のチャンスだと思っている。
- ・こうした中、半導体人材の教育体制強化を決定された熊本大学と協力し、地方大学・地域産業創生交付金に申請し、1年間厳しい指摘も受けながら採択されたところ。
- ・これをきっかけに、熊本県経済や熊本大学を中心とし、企業と連携した人材育成が大きく羽ばたいていくように、熊本大学及び県内産業界を応援していく。
- ・4月に設置した「くまもと3D連携コンソーシアム」は既に63社・機関が入会しており、そのうち50社は県内に事業所があることから、地域からの期待感が高く、いい兆候だと考えている。
- ・中核企業としての役割を担っていただくソニーセミコンダクタマニュファクチャリング様には感謝申し上げます。
- ・本日は関係行政機関、熊本大学を始めとする教育機関、中核企業、工業連合会、金融機関等が集まり、事業全体の進捗管理や意見交換を目的としている。
- ・県の産業施策の核としたいと考えているので、忌憚のないご意見を頂きたい。

2. 事業責任者挨拶

○小川熊本大学長（事業責任者）

- ・本事業の事業責任者として一言ご挨拶申し上げます。
- ・熊本県では地方大学・地域産業創生交付金に採択され、半導体の三次元積層実装技術の研究開発、大学改革を通じ、人材育成と地域産業の振興を目指すことになった。
- ・蒲島知事、木村副知事を始めとする熊本県の皆様、参加している皆様には御礼申し上げます。
- ・大学でも100年に一度の重要な事業ととらえており、精一杯推進していく。
- ・本事業では、若者を引き付ける地域産業、若者雇用の創出と地域創生に貢献する地方大学作りが目的となっており、地域への還元が重要。
- ・研究開発では、青柳卓越教授を中心として、三次元積層実装半導体の量産化技術を

開発し、地域に新産業の創出することを目指す。

- ・先日、製造装置の開発及び設計技術の確立に向けた7つの研究開発プロジェクトが熊本県の審査を通過し、開始したところ。
- ・地域の企業との連携では、4月にくまもと3D連携コンソーシアムを立ち上げ、63社・機関に参加いただいている。
- ・先日、コンソーシアムの交流会に参加したが、地域企業からの大きな期待を改めて感じたところ。
- ・人材育成では、半導体教育を強化しており、半導体研究者を2年で10名増員し、クロスアポイントメント制度により5名の先端研究者を招く。
- ・教育に関しては、日本で初めて学部生向けの半導体専門のカリキュラムを設け、半導体専門人材の輩出に向けて組織を強化している。
- ・学生に対しては、共同研究に学生が参加するためのリサーチアシスタント（以下RA）・ジュニア研究員制度を開始する。
- ・共同研究に参加する学生が、正式な大学の研究者として、民間企業と研究活動を行うことで、企業のことを知り、将来の進路として真剣に考えることが期待される。
- ・研究開発による新産業の創出は非常に重要で、また、時代を担う人材の育成は最も重要。
- ・研究・教育は熊本大学の責務として全力を尽くすので、ご協力・ご支援を賜りたい。

3. 委員紹介

(委員紹介)

4. 交付金趣旨及び概要説明・進捗報告

○事務局（熊本県）

地方大学・地域産業創生交付金の主旨及び熊本県の申請内容について説明を行った後、4月からの事業開始に伴う進捗を報告。主な報告内容は以下のとおり。

- ・くまもと3D連携コンソーシアムについては、4月に立ち上げ、現在までに2回のオープンセミナーを開催。第3回を9月に予定。
- ・県の取組として、公益財団法人くまもと産業支援財団に設置した半導体産学連携コーディネーターを雇用。その活動実績も挙がってきており、県内企業からもポジティブな意見をいただいている。
- ・コンソーシアムのメンバーによる共同研究プロジェクトについて、今年度は7プロジェクトを認定し、県内企業7社に支援を決定。研究開発は1年で終わるものではなく、2、3年かかるものであるから引き続き支援を継続する。
- ・熊本県のその他の取組みとして、県立技術短期大学から熊本大学へ編入が可能となる構造改革特別区域計画が内閣府より認定。令和6年4月より熊本大学工学部2年次への編入が可能となる。

○小川熊本大学長（事業責任者）

大学の取組内容・強化内容として、人材育成関係と研究開発関係に分けて報告。主な報告内容は以下のとおり。

- ・人材育成関係では、文部科学省により半導体に関する課程や学環の令和6年度開設が認められた。また、クロスアポイントメント制度により計5名の雇用が開始。さらに学部生・大学院生をRA、ジュニア研究員として雇用し、共同研究に参画させる予定。
- ・研究開発関係では、県の補助金を活用し、大型の研究設備・機器等を順次導入予定。

議事の公開・非公開について

- ・議事である「5 代表者会議報告」及び「6 今後の予定」については、本事業で行う共同研究の内容等の非公開情報を含む内容となることから、熊本県情報公開条例第7条第3号及び審議会等の会議の公開に関する指針第3の規定に基づき、非公開に該当するものと考えている。
- ・事務局より上記を説明の上、議事の非公開について委員全員から了承を得た。

5. 代表者会議報告

○小川熊本大学長（事業責任者・代表者会議座長）

代表者会議について開催報告があった。各部会については、各部会長及び代理より報告。主な報告内容は以下のとおり。

計画推進部会について

○辻井産業支援課長（計画推進部会長代理）

- ・計画推進部会はPDCAを回すための部会。
- ・今後、事業の計画や広報活動、海外機関との連携についても協議する予定。

大学改革・人材育成部会について

○松田教授（大学改革・人材育成部会長代理）

- ・5項目（トップレベル人材招聘、クロスアポイントメント人材、工学部・半導体デバイス工学課程、RA・ジュニア研究員、高専からの編入及び技大からの編入制度の創設等）について進捗確認・協議を行う部会。
- ・第1回の報告内容は、新課程や学環の新設、高専等との連携教育の協議状況、編入制度による審査状況、トップレベル人材の招聘状況、クロスアポイントメント制度の受け入れ状況について。
- ・今後の部会メンバーの追加予定についても報告。

研究開発・プロジェクト推進部会について

○青柳卓越教授（研究開発・プロジェクト推進部会長）

- ・研究テーマの進捗管理やくまもと3D連携コンソーシアムによる産業創出、企業マッチング等の状況から解決策を協議する部会。
- ・7つの研究テーマが共同研究開発プロジェクトとして県より認定。研究開発を進めていく。
- ・くまもと3D連携コンソーシアムはオープンセミナーを2回開催し、3回目も開催予定。現在、63社・機関が参画しており、更に拡大する見込み。

意見交換

- ・今後の課題や研究開発の方針について、意見交換を行った。

6. 今後の予定について

○事務局（熊本県）

- ・本交付金は、内閣府から10年間の計画として採択をされているが、毎年内閣府による継続審査がなされる予定。
- ・第3回の本会議は2月中旬頃に開催予定。

7. 閉会

以上